

**記載例**

注1:本書には必ず**変更後の内容**を記入願います。  
 注2:**所有する免許状ごと**に記載願います。(1通の申請書に複数枚の本用紙を添付する事ができます。)

		記入必須箇所	変更該当箇所のみ記入	記入不要箇所
1 枚目	無線局事項書及び工事設計書			
1	免許の番号	海K第1001~1005号	(5局分)	ここにチェック
2	申請(届出)の区分	<input type="checkbox"/> 開設 <input checked="" type="checkbox"/> 変更 <input type="checkbox"/> 再免許		
3	無線局の種別コード	CR		このまま記入
4	開設、継続開設又は変更を必要とする理由	例1:無線設備を更新し、識別信号を変更するため。 例2:無線設備を更新し、周波数及び識別信号を変更するため。 例3:本社住所の移転に伴い、住所及び常置場所を変更するため。 例4:社名変更に伴い、免許人名及び識別信号を変更するため。		
5	法人団体個人の別	<input checked="" type="checkbox"/> 法人 <input type="checkbox"/> 団体 <input type="checkbox"/> 個人		該当欄にチェック
6	住所	都道府県一市区町村コード [ ] 〒(461-0011) 愛知県名古屋市中区白壁1-15-1		【法人の場合】登記されている本社住所 【団体の場合】団体の事務所の住所 【個人の場合】自宅の住所
7	氏名又は名称及び代表者氏名	フリガナ トウカイツツカブシカイシャ 東海総通株式会社		【法人の場合】法人名のみ 【団体の場合】「団体名」+「代表者役職名」+「代表者氏名」 【個人の場合】氏名
8	希望する運用許容時間			
9	工事落成の予定期日	<input type="checkbox"/> 日付指定: _____ <input type="checkbox"/> 予備免許の日から _____月 _____日目の日 <input type="checkbox"/> 予備免許の日から _____日目の日		
10	運用開始の予定期日	<input type="checkbox"/> 免許の日 <input type="checkbox"/> 日付指定: _____ <input type="checkbox"/> 予備免許の日から _____月以内の日 <input type="checkbox"/> 免許の日から _____月以内の日		ここにチェック
11	無線設備の設置場所又は常置場所	区分 <input type="checkbox"/> 設置場所 <input checked="" type="checkbox"/> 常置場所		無線局の保管場所(車両に取り付けている場合は、車両を配備している事業所の住所等)を記入 ※本項目を変更する場合の書類の提出先は、変更前の本項目の住所を管轄する総合通信局です。 (愛知県、岐阜県、三重県、静岡県は東海総合通信局へ提出)
	住所	都道府県一市区町村コード [ ] 愛知県名古屋市中区北区△-△		
	船舶名	フリガナ		
	主たる停泊港又は定置場			
12	移動範囲	基本コード [ N ] 付加コード [ ] 基本コード [ ] 付加コード [ ]		希望する移動範囲のコードを記入 例1:全国(基本コード:N) 例2:東海総合通信局管内(基本コード:C) 例3:常置場所のある市区町村、その周辺(基本コード:P 付加コード: /)
13	無線局の目的コード		<input type="checkbox"/> 従たる目的	
14	通信事項コード			
15	通信の相手方	免許人所属の簡易無線局		
16	識別信号	【デジタル機の例】10000001~10000005 【アナログ機の例】とうかい1~5		【デジタル機の場合】 「1」から始まる9桁のCSM番号 【アナログ機の場合】 「免許人名の略称など」+「数字」 ※アナログ機は希望する略称と数字を記入願います。 【デュアル機の場合】
17	電波の型式並びに希望する周波数の範囲及び空中線電力	無線設備から発射が可能な電波の型式、周波数及び空中線電力を記入 デュアル機の場合はデジタル周波数とアナログ周波数の両方を記入 不明の場合はメーカー等に問い合わせ願います 【150MHz帯アナログ周波数の例】 16K0 F2D F3E 154.45~154.61MHz 20kHz間隔 9波 5W 【150MHz帯デジタル周波数の例】 5K80 F1D F1E 154.44375~154.55625MHz 6.25kHz間隔 19波 5W 【400MHz帯デジタル周波数の例】 5K80 F1D F1E 465.096875~465.153125MHz 6.25kHz 間隔 10波 5W 5K80 F1D F1E 467~467.4MHz 6.25kHz 間隔 65波 5W 【中継用400MHz帯デジタル周波数の例】 5K80 F1D F1E 465.034375~465.090625MHz 6.25kHz 間隔 10波 5W 5K80 F1D F1E 468.796875~468.853125MHz 6.25kHz 間隔 10波 5W		
18	送信機	ATIS番号	10020000001~10020000005	【デジタル機及びアナログ機の例】 001-P01001 【デュアル機の例】 アナログ: 001-P01001、デジタル: 001-A01002
		適合表示無線設備の番号	製造番号	PD123456~PD123460
		製造番号		
19	空中線	空中線型式等	基本コード 付加コード 偏波面コード (絶対利得が2.14dBの単一型の空中線を使用する場合は記入不要)	
		高さ(m)	(移動しながら使用する無線局の場合は記入不要。 事務所の屋内に受信機を設置し、空中線を屋外に設置する場合などは地上から空中線の頭頂部までの高さを記入。)	
		利得(dBi)	(絶対利得が2.14dBの単一型の空中線を使用する場合は記入不要)	
20	附属装置	コード	D	補足事項
		S	〇〇〇.〇Hz	
21	その他の工事設計	<input checked="" type="checkbox"/> 電波法第3章に規定する条件に合致する。		・連番の場合のみ1枚で提出が可能 ・連番でない場合は、その番号ごとに本用紙を作成すること
22	備考	(連絡事項があれば記入)		

「識別信号(CSM番号、デジタル機)」、「ATIS番号(アナログ機)」、「適合表示無線設備の番号」、「製造番号」は本体に記載があります。  
 不明の場合はメーカー等に問い合わせ願います。

ここにチェック

【電波の型式に「F1D」や「F2D」がある場合】  
 コード欄に「D」を記入  
 【アナログ機かつ無線設備にトーンスケルチがある場合】  
 コード欄に「S」、補足事項に使用するトーン信号周波数(Hz)を記入  
 【デジタルコードスケルチを使用する場合】  
 コード欄に「S」、補足事項に使用する3桁のデジタルコード番号を記入